

学歴・職歴

1955年、福岡県生まれ。(公益財団法人)中村元東方研究所、専任研究員)。法政大学哲学科、駒沢大学大学院仏教学専攻(修士課程修了)、ロンドン大学に、The Religious Life of the Svetambara Murtipujaka Jains of the Rup Nagar Temple Community in North Delhi, Indaiのタイトルで論文を提出し、PhD取得。

千葉県市川市の国府台女子学院高等部において非常勤講師(1986-1995)として仏教の講座を受け持つ。1986年より現在に至るまで、中村元東方研究所に専任研究員として在籍。インドのデリー大学留学中(1983-1985)にホームステイしたことがきっかけとなりジャイナ教の研究を始める。現在は、デリーの白衣派尊像崇拜派のジャイナ教に関して在家信徒側から見た宗教生活や出家の修行者集団との関わりについての研究に従事。

主な論文、講演会

主な論文：

「ジャイナ教におけるDevī信仰——白衣派尊像崇拜派のPadmāvati Devī儀礼を中心として」

「ジャイナ教徒のカーストとゴートラに関して——デリーの白衣派尊像崇拜派を例として」

講演概要

仏教興起時代に、ブッダと同時代に生きた救済者マハービーラ(Mahāvīra)により発展し現在に至るまでインドに存続するジャイナ教を紹介し、大多数のヒンドゥー教を中心としたインドの社会の中で少数派でありながら、富裕で重要な宗教のコミュニティとしてその位置を保っている状況を解説する。

ジャイナ教のイントロダクションとして歴史(ブッダとマハービーラの時代と人物像)、諸宗派、出家修行者、寺院と信徒組織(信徒の構成・職業)、戒律(出家・在家の五大警戒)、在家信徒の宗教実践等に関する点から講演する。特に、デリーでの現地調査に基づいて、現在のジャイナ教徒の宗教性に関するテーマを専門とした研究を踏まえて、ジャイナ教徒にとって重要とされている宗教実践として、菜食主義(五戒の中で特に殺生戒を重要視する生活習慣)や、信者が家庭や寺院において行う宗教儀礼、あるいは無所有を標榜する出家修行者に対する支援(布施・施食)について述べる。

5月20日(金) 午前9時半～午前11時

第一講

●講演テーマ

インドの宗教—ジャイナ教と宗教生活

●講師

清水 晶子 先生

中村元東方研究所
専任研究員

●概要

ジャイナ教は、仏教興起時代に新しい宗教として繁栄していた仏教と同様、シュラマナ(非バラモン)の伝統を継承するものでありながら、インドの地に残り、時代と共にヒンドゥー教の影響を受けた。2500年あまりの歴史を経て、現在のジャイナ教徒の宗教生活と、インドから伝播した仏教を受容した日本における在家の信者の事例と比較してみると、以外な共通点と相違点をそれぞれを見いだせる。ジャイナ教の在家信徒の宗教生活から、インドの宗教を考えてみたいと思う。

5月20日(金) 午前11時半～午後1時

第二講

●講演テーマ

“日本の童画家”シリーズ⑤

夢二が絶賛した 美人画の天才!

●講師

落谷 龍夫 先生

落谷虹児記念館 名誉館長

●概要

落谷虹児は、明治31(1898)年に生まれました。本名は一男。家はたいへん貧しく、働きながら絵の勉強を続けました。

大正9(1920)年、日米図案社に入社し、住み込みで働き始めました。同年、竹久夢二の紹介で、雑誌『少女画報』の挿絵画家としてデビュー。西洋文化が次々と入ってくる時代を背景に、詩情あふれる新たな表現を生み出します。

大正13(1924)年、『令女界』に代表作「花嫁人形」の詩と絵を発表。その詩は、後に杉山長谷夫が曲をつけて童謡となりました。

落谷虹児の三男として、昭和9年7月8日、東京生まれ。

東大仏文科卒。NHK映画部に入り、映像カメラマンとして主に自然番組の撮影を担当。教育TVの番組「ビデオカメラ入門」に講師として半年間出演、退職直前には「日本百名山」で槍ヶ岳や穂高などの撮影を担当しました。

また、在職中から「落谷虹児記念館」の館長として、新潟に通い、4年目に朝日新聞社主催で東京ほか全国9会場を巡回する「抒情の旅人・落谷虹児展」を開催、その後は名誉館長として関わってきました。

退職後はフリーカメラマン、今村昌平監督の日本映画学校や聖心女子大などで講師、現在も日本映画大学には非常勤講師として関わっております。

赤い鹿の子の 泣かぬ 花嫁人形は 千代が み衣は	泣かぬ 鹿の子の 赤い 紅に じむ	あねさん ごっこ の 振袖 着てる	文金島田に 花嫁御寮は なげ泣くの だろ	髪結ひながら なげ泣くの だろ	金襴綴子の 帯しめながら なげ泣くの だろ	花嫁人形 詩
--------------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-----------------------	--------------------------------	-----------

平成二十八年五月二十日(金) 午前九時半より午後一時まで



第十二回

佛教文化講演会



主催 公益財団法人 中村元東方研究所

宗教法人 法恩寺 高松市鹿角町六七五―三
電話 〇八七―八八五―〇六六

プログラム

5月20日(金)

午前9時半	第一講 清水 晶子 先生
午前11時半	第二講 落谷 龍夫 先生
午後1時～2時	昼食
午後2時～3時	宗祖降誕会・納骨法要・住職法話

一般の方の参加費は五千円、
ご門徒様並びに光住山墓苑利用者はおローソク料で聴講できます。



一協賛一

高松市民葬儀 指定

株式会社 公益社

高松市藤塚町3丁目8番9号 0120-33-4242

岩佐佛喜堂

●本店 高松市丸亀町10-3 (丸亀町商店街中央) TEL(087) 851-1033
 ●勤使店 高松市助使町190-1 (国道11号線沿い) TEL(087) 866-1033
 ホームページ <http://www.buddha.co.jp>

庵治石採掘・墓石・燈籠・彫刻・庭石
 光住山墓苑(中間町)指定石材店幹事会社

中原石材

〒761-8031 香川県高松市郷東町563番地 TEL087-881-3556 FAX087-881-5669

中間町光住山墓苑につきましては「墓地」として登記が完了しました。お知り合いの方で「墓地」をお探しでしたら、法恩寺へご連絡ください。指定業者6社(光住会)をご紹介します。なお、ペット霊園も正式な「墓地」名義の土地に造っております。

光住山墓苑内ペット霊園

▶ ペット焼骨の永代埋葬料 13,000円
 指定容器は管理棟にて貸し出しいたします。(永代埋葬料前納)
 ↳ 公営火葬場・民営火葬場で焼骨 ▶ 指定容器で受け取る
 ▶ 光住山墓苑管理棟(ログハウス)で受け付けいたします。 ◀

受付時間 土・日・月 10:00～14:00
 中間町高松変電所南200m(高松市中間町1182番地)
 TEL・FAX(087)885-5508

御案内

宗祖降誕会
御先祖納骨

法要

日時 五月二十日(金) 午後二時より読経・法話(午後三時終了)
法話 住職 藤原浄峰

一切道俗もろとも
歸すべきところぞさらになき
安樂勸歸のこゝろざし
鸞師ひとりさだめたり (曇鸞讃)

◇当時、教界に諸説紛々として、出家も在家もすべて帰趣する所に迷っていたが、曇鸞大師一人の努力で、人々に安樂浄土への往生を願わしめられた。

*葬式等、突然な法務がきますと、法話を中止する場合がありますのであらかじめご了承願います。

門信徒各位

法恩寺